

乳幼児健診の質的向上に関する研究

分担研究者 吉田 哲彦（広島市衛生局長）
研究協力者 近藤 信之， 名越 雅彦， 松井 明美
植田 智子， 森 弘子， 安部 敦子
浦田 初子， 米光 英子（広島市衛生局）

要約：本年度は、これまでの研究から得られたことを基にして、乳幼児健診の質的充実のために新たな健診システムを考案し、それを本市の保健所において試行し、評価検討を加えた。

新システムは、従来の4カ月児健診にBCG予防接種や、参加者同士の交流会などの母子の健全育成を指向した内容を併設したものである。参加した人の意見や感想を調査したところ、ほとんど全員がこのシステムに賛同しており、特に交流会に対して共感を示していた。

時代の変遷とともに、特に都市部は、地域の連帯の希薄化、潜在的な育児不安の増大がいわれており、母子が健康増進をはかる上で、よい環境とはいえなくなっているようである。

今後、健全児とその母親が多数集まる乳幼児健診の場を利用して、母親の仲間づくりの推進など、母子の健全育成をめざした働きかけを行っていくことが、疾病の発見の充実と並んで特に、都市部の母子保健システムの質的向上に必要であると考えた。

この研究結果および過去2年間の結果をふまえ、本市における乳幼児健診の望ましいシステムについて検討した。

I はじめに

初年度は、本市の乳幼児健診のシステムを見直すために調査を行い、その結果今後の健診の質的充実のための検討課題として次の三点が考えられた。

- ①個別健診の実施方法、②事後措置の進め方
- ③母子の健全育成

次年度は、上記三点を中心として政令指定都市および東京都特別区の乳幼児健診の現状を調査した。他都市のシステムの中には、今後、本

市の健診システムの充実の参考になる次のような具体例があった。

- ・ 健診時に同時に予防接種を行う。
- ・ 健診に関連させて、保健知識の普及啓発を行う。
- ・ 健診時に母親の仲間づくりを行う。

これら2年間の研究結果をふまえ、今年度は新たな健診システムを考案し、それを市内の保健所において試行し、受診者の意識調査を行って評価検討を加えた。

II 試行したシステム

1 概要

広島市で実施している、4回の集団健診（4カ月、9カ月、1才半、3才）のうち、4カ月児健診の内容を変更した。

その内容は、表1のとおりであり、変更点は従来一日で行われていたものが二日間にわたるようになったこと、BCG接種、栄養に関する集団指導や交流会を付け加えたことである。

市内の一保健所において昭和63年12月に、このシステムを4回試行し、計123組の母子の参加を得た。参加者全員に、表2の内容でアンケート調査を実施した。

2 交流会

この企画については、新システムの主眼と考えられ、また通常、健診に併設して行われることが少ないので、その概要を以下に示す。

(1) 交流会の目的

・同じ月齢の児を育てている人の現状を、直接見聞きでき、より実践的な育児の学習ができる機会となる。

・同じ地域で同じような立場にある人と親密になれるよい機会である。

・指導者にとっても、健康づくりの基本的な考え方を浸透させていく、よりよい場となる。

(2) 具体的方法

健診に参加した人達を、同一の地区ごとにグループ12~13人程度の三つのグループに分ける。グループごと、一つの部屋に集まりそれぞれに保健婦が二名従事する。

各自の自己紹介の後、ふだんの育児で感じていることを自由に述べていく。

保健婦は、述べられた意見をまとめたり、適切な助言を与えながら会を進行させる。

(3) 指導上の留意点

次のようなことを念頭において助言や指導を行った。

- ・4カ月の時点での発育や発達の姿について（その個性性、多様性など）
- ・4カ月児の生活のリズムの確立について
- ・母親の児への接し方について

III 結果および考察

1 BCG予防接種の併設について

BCG予防接種の健診への併設については、ほとんど全員（93%）が賛成していた。

併設は受診者にとって利便性が高く、また乳児期早期にBCG接種が完了するという利点もある。さらに、接種時に様々な企画を盛り込むことが可能となる。

しかし、併設を実施した場合、新たに医師や看護婦、事務職の従事が必要になり、また一回当たりの接種人数が少なくなるなど、マンパワーや効率面での問題が出てくると思われる。

2 栄養に関する集団指導

主として離乳食についての指導を行った。

従来の健診の時に比べて、十分な時間をかけて指導を行うことができ、その内容も豊富にすることができた。

図1からもわかるように、参加者のほとんどが、今回の指導に満足していた。

講義の前後で参加者に簡単なテストを実施したところ、正答率に明らかな差がみられ、指導の効果が高いものと考えられた。

栄養についての指導は、健康な児への働きかけの重要な項目の一つであり、今後もその工夫充実が必要と思われる。

3 交流会

参加した母親の大多数は、この会を好意的に受けとめていた。(図2参照)

「今後もこのような機会を増やして欲しい」といった意見も多数寄せられた。

どこをよいと感じたかについては、「いろいろな人の話が聴けた」(89%)、「同じようなことで悩んでいる人がいることを知り安心した」(41%)などが多かった。

「自分の意見を話すことができた」(8%)は少なかった。

以上の結果より、育児中の母親は他の同じような母親の状況に大きな関心があることが、示唆された。

最近、特に都市部においては、少産の傾向や就労婦人の増加、核家族化の進行が顕著になり地域の連帯の希薄化もいわれている。

地域全体で子育てを行うという風潮もみられなくなってきており、潜在的な育児不安も増加している。そういった状況は、児が健やかに育つ上での障害になる恐れもある。

やがて来る高齢社会においては、現在、乳幼児である世代が担う役割は大きく、そのためにも彼らが心身とも健康で育っていくことは重要なことと考えられる。

今回のような交流会を契機に、新たに自主的な育児グループができれば、地域全体の保育力が高まって、児の健全な育成が期待できる。

また、昨今、一次予防の重要性や自分の健康

は自分で守る自覚を持つ必要性がさかんにいわれている。そのような考え方や知識を普及浸透させ、実践的な指導を行うよい機会として、このような会をとらえることもできる。

従来、乳幼児健診においては、疾病の早期発見に重点がおかれてきたが、医療機関の数が多いう都市部では、医療機関で多くの疾病が発見されるので、健診で新たに発見される疾病は数少ないのが現状である。

今後、特に都市における乳幼児健診においては、今回行った交流会のような、母子の健康づくりをめざした企画を併設することが、その質の向上につながると考えられる。

IV まとめ

3カ年の研究を通じて得られた知見を参考に本市の乳幼児健診システムを見直し、その質的向上について考えた。

これまでの研究から、健診システムの充実のためには、次の点に充分、留意すべきであると考えられた。

- ・一つの体系的システムの中で、個別健診および集団健診をとらえること

- ・健診時の母子の健全育成を充実させること

また、保健行政をとりまく状況は、年々厳しいものになっており、新たな予算措置を健診システムに講ずることは、本市においても極めて困難であることから、現行のシステムを見直す場合、特に省力できる部分に注意しておく必要があると考えられる。

以上より、本市における望ましい乳幼児健診のシステムを考案した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:本年度は、これまでの研究から得られたことを基にして、乳幼児健診の質的充実のために新たな健診システムを考案し、それを本市の保健所において試行し、評価検討を加えた。

新システムは、従来の4ヵ月児健診にBCG予防接種や、参加者同士の交流会などの母子の健全育成を指向した内容を併設したものである。参加した人の意見や感想を調査したところ、ほとんど全員がこのシステムに賛同しており、特に交流会に対して共感を示していた。時代の変遷とともに、特に都市部は、地域の連帯の希薄化、潜在的な育児不安の増大がいわれており・母子が健康増進をはかる上で、よい環境とはいえなくなっているようである。今後、健常児とその母親が多数集まる乳幼児健診の場を利用して、母親の仲間づくりの推進など、母子の健全育成をめざした働きかけを行っていくことが、疾病の発見の充実と並んで特に、都市部の母子保健システムの質的向上に必要であると考えた。

この研究結果および過去2年間の結果をふまえ、本市における乳幼児健診の望ましいシステムについて検討した。